

ノロウイルスによる 感染性胃腸炎の感染防止について

H24. 11 作成

感染性胃腸炎は、冬季に多く発生し、多種多様な原因による胃腸炎の症状を起こす病気です。主な病原体は、ウイルスや細菌ですが、その中でもノロウイルスは感染力が強いものです。施設などで集団感染を引き起こすことがあるので日頃から気をつけましょう。

◇ 症状・治療 ◇

潜伏期間：1～2日

症状：吐き気、嘔吐、下痢、腹痛であり、発熱は軽度です。

（感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状もあります。）

通常これらの症状は1～2日続いた後、治癒し、後遺症ありません。

抵抗力の弱い乳幼児や高齢者は下痢による脱水症状を起こし重症化することがあります。

早めに医療機関を受診しましょう。

吐物を誤って気道に詰まらせ肺炎や死亡することがあるので変化には注意してください。

治療：ノロウイルスについては、ワクチンや抗ウイルス剤がなく、また治療は輸液などの対症療法に限られます。嘔吐などの症状がおさまってきたら水分を補給し、安静にし、消化しやすい食事をとるようにしましょう。

下痢等の症状がなくなっても1週間程度ウイルスの排出が続きますので留意しましょう。

◇ 感染経路 ◇

ほとんどが手指や食品などを介しての経口感染

1. 患者のふん便や吐物から手指などを介してノロウイルスが口に入った場合
2. 家庭や共同生活施設等の人同士の接触する機会が多いところで人から人へ直接感染する場合
3. 食品取扱者（調理する者など）の感染がもとで、不十分な手洗いでの調理による汚染した食品を食べた場合
4. 汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
5. ノロウイルスに汚染された井戸水や簡易水道を消毒不十分で摂取した場合

◇ 感染防止 ◇

手洗いと患者のふん便や吐物の処理(消毒)などが重要

○ 患者のふん便や吐物には大量のウイルスが排出されるので

1. 食事の前やトイレの後などには、必ず手洗いしましょう。
2. 下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。調理を行わざるをえない場合は手洗いを十分に行いましょう。
(使い捨ての手袋の着用も有効です)
3. 患者のふん便や吐物の処理時は、使い捨てのマスクや手袋、エプロンを着用して適切に処理しましょう。
処理後は、十分に手を洗い感染を広げないようにしましょう。

○ 特に、子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い方

1. 生ものや二枚貝は、中心部まで十分な加熱が必要！
(食品の中心温度 85℃以上で1分以上の加熱)
2. 使用した調理器具等は、①よく洗浄→②殺菌消毒（塩素系漂白剤など）しましょう。